

令和元年度第1回和歌山県スポーツ推進審議会 議事録

- ◆日時・場所 令和元年7月10日(水)10:00~12:00
ホテルアバローム紀の国 3階 孔雀の間
- ◆出席委員 ◎山下委員 ○橋爪委員 石本委員 鴻池委員 雑賀委員
阪本委員 筋師委員 田村委員 西脇委員 坂東委員
彦次委員 南委員 室委員
(◎会長、○副会長)
- ◆事務局 宮崎教育長 松本生涯学習局長
橘参事兼プロジェクト推進室長事務取扱
高橋スポーツ課長 森健康体育課長 上村特別支援教育室長
中野ねんりんピック推進課長 更家障害福祉課長
他事務局14名

◆概要

1 開会

2 教育長あいさつ

3 議題

(1) 和歌山県スポーツ推進計画の進捗状況について

- ・資料第1号により事務局が説明

[質疑応答等]

(委員)

和歌山県スポーツ推進計画の進捗状況をまとめることは大変重要である。推進計画は5年間の成果を見て見直しをかけることになっているが、見直しの際の生きた基礎資料という形になるように今回のようにわかりやすい資料を引き続きお願いしたい。

(委員)

エクセレントコーチはどの競技に配置しているのか。

(事務局)

平成30年度はハンドボール、陸上、なぎなた、ソフトテニス、バドミントン、ボクシン

グ競技に体育指導員を配置している。

また、平成 31 年度はバドミントンはなくなったが、ホッケー競技とウエイトリフティング競技に追加で配置している。

なお、退職教員 9 名の方にもエクセレントコーチを行っていただいております、平成 30 年度は弓道、体操、水泳、空手道、相撲、ウエイトリフティング、バレーボール競技を担当していただいている。平成 31 年度はホッケー競技にも追加で配置している。

(委員)

成人の週 1 回のスポーツ実施率について 2016 年の実績が 46%で 2022 年の目標が 65%ということからすると 2018 年はどれぐらいの数値になりそうか。

(事務局)

総合型地域スポーツクラブの活用やスポーツをする場所づくりやスポーツ推進委員の方の活躍等様々な施策を進めていく上で、この実施率の向上に向けて取り組んでいきたい。

(委員)

東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会において予想ではどれぐらい出場できそうか。

(事務局)

例えば、レスリング、フェンシング、スケートボードの選手は出場可能性の高い選手が複数名いる。また、他の候補選手も一覧にすると結構な人数になるため、目標の 10 名にできるだけ近づきたい。

(委員)

今、世の中を見ていると早い段階から特別なスポーツをすることが多いと思うが、ゴールデンキッズの体力測定会の対象を小学校 3 年生、4 年生にしている基準や測定した結果をどういう形でトップアスリートにつなげているのか。

(事務局)

種目によってはかなり早い段階から実施しなければいけない競技というものの中にはある。ただし、3 年生、4 年生で体力測定を開始して 4、5、6 年生の 3 年間、キッズのプログラムを受けている子供たちにとって、その段階から始めたとしても十分トップレベルとなりそのような種目も和歌山には複数ある。キッズのプログラムを体験してもらう中で個人の適性にあった種目を選べるよう促している。

(委員)

去年の全国都道府県対抗男子駅伝で和歌山県はめでたく 9 位になるなど、成果が出てきている種目もある。国体でも 20 台前半という順位は全く不可能ではないと考えている。駅伝で 9 位につながった原因・結果をよく調べて他の種目にも活用してほしい。

3 議題

(2) 和歌山県民のスポーツ生活に関するアンケートの実施に向けて

・資料第 2 号により事務局が説明

[質疑応答等なし]

アンケート調査の実施間隔を 5 年から 2 年に変更するという議題について承認された。

4 報告事項

(1) 第 3 2 回全国健康福祉祭和歌山大会（ねんりんピック紀の国わかやま 2019）準備状況について

・資料第 3 号により事務局が説明

[質疑応答等]

(委員)

和歌山国体の時はアトラクションが行われている間、選手は外のサブグラウンドでテレビを通じて間接的に鑑賞する形で、直接はアトラクションを見れない状況だったが、ねんりんピックではどうなっているか。

(事務局)

選手の皆様方も楽しんでいただける趣向になっている。

(委員)

もう一つ質問だが、1 万人全員が行進をするのか。

(事務局)

基本は全員。6 月末で申し込みを締め切ったが、応募者数は 1 万人を超えた。最高齢は県外の方を含めると 100 歳。和歌山県の選手では 96 歳の方が参加されることになっている。

(2) ラグビーワールドカップ 2019 公認キャンプ等について

・資料第 4 号により事務局が説明

[質疑応答等なし]

(3) 東京 2020 オリンピック聖火リレーについて

・資料第5号により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

新宮から和歌山市までリレーで聖火を引き継ぐわけだが、一日で可能なのか。

(事務局)

14市町を2日間かけて回るが、各市町で約2キロくらいの区間を聖火をもってリレーすることになっている。隣の町に移動する時はバス等車両で移動するため可能である。

(委員)

まだスケジュールはできてないかもしれないが、各市町を通過する時間帯、例えば10日には串本町では何時から何時ぐらいまで走るということを広報できるようにお願いしたい。

(事務局)

今年の年末には詳細ルートを発表したい。

(委員)

通過する市町から、最低1名ぐらいのランナーが得られるよう調整できないか、各都道府県はどうか。

(事務局)

すべての市町村から選べるかについては、現在まだ検討中である。

基本、和歌山にゆかりのある方が走るということでご理解いただけたらと思う。例えば、和歌山に以前住んでいたとか、働いていたとか、そういったことも含めて和歌山にゆかりのある人ということになる。

(委員)

できるだけ調整をお願いしたい。

(4) ワールドマスターズゲームズ 2021 関西について

・資料第6号により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

参加者 5 万人とあるが、前大会はどうか。

(事務局)

前大会はオークランドで開催され、2 万 6000 人ぐらいの参加であった。今回は広域開催のため、国内 3 万人、海外から 2 万人を呼んでということで現在進めている。

(委員)

参加者 5 万人は大体達成できそうか。

(事務局)

はい。また、本県の競技については広報活動に力を入れていきたい。

(委員)

マスターズは観光も含めて経済効果があるといわれており、そういう意味もあって和歌山の参加予定人数が 1 万 3500 人ぐらいと多数の参加を見込むことは大変結構なことだと思う。ぜひとも参加予定人数を達成できるよう頑張ってください。

(5) 本県の運動部活動について

- ・資料第 7 号により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

部活動指導員は顧問の先生ではない、いわゆるコーチという意味で理解してよろしいか。

(事務局)

はい。

(委員)

部活動指導員の経費について県から予算の範囲内で補助金を交付するとあるが、指導員になっていただく方を増やすために、県だけでなく市町にもご負担をお願いしてはどうか。

(事務局)

平成 29 年度から国の事業を使ってやっているが、1 時間の指導に対して上限 1600 円となっている。国と県と当該市町村で 3 分の 1 ずつ出し合って、例えば 1500 円の場合は、500 円ずつ出し合っているという形になっている。

平成 29 年度は市町村もなかなか予算等準備ができていなかったが、だんだん準備も整ってきている。また、部活動指導員の効果も浸透してきたため、少しずつ増加していったという状況になっている。

(委員)

部活動の休養日だが、試合や強化合宿は土日にあるが、これらは除外ということよろしいか。

(事務局)

はい。ただ、大会の見直しも図っていかなければいけないと思っている。中体連、高体連、関係機関とも連携して今後進めていきたい。

(委員)

資格を持った方が指導者になれば、競技力が大幅に向上するが、現在はどうか。

(事務局)

現在のところ、基準として一定の資格は必要としていない状況である。

(委員)

条件に入れたら非常に集まりにくいと思うが、資格を持った方にお願いはできるので、できるだけ努力していただきたい。

(6) 令和元年度全国高等学校総合体育大会について

- ・資料第 8 号により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

国体の予選でカヌーが 3 種目増えたと聞いているが、詳細を説明していただきたい。

(事務局)

近畿ブロック大会でカヌー競技においてはスプリント種目で 3 種目増え、ワイルドウォーターの方では 1 種目減になったため、トータルとしては 2 種目の増となっている。

(委員)

これは、高校生は関係なかったのか。

(事務局)

少年種別も関係があり、近畿ブロック大会 1 位で通過している選手も出ている。

(委員)

インターハイでの活躍を期待している。

(7) 第 7 4 回国民体育大会及び近畿ブロック大会について

- ・資料第 9 号により事務局が説明

〔質疑応答等なし〕

(8) 第 1 9 回全国障害者スポーツ大会について

- ・資料第 1 0 号により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

和歌山県の予選大会に大体 1000 人ぐらいが参加しているが、そのうち支援学校関係が非常に少なくなっている。支援学校として申し込んでいるところが 6 校あって 45 名、また、振興局や市町村に個人的にも申し込んでいる状況。申し込み方法が統一されていないこともあって非常に少なくなってきた。スポーツは社会復帰等、今後の糧になると思うので、できるだけ多く参加できるように仕組みづくりをお願いしたい。

(委員)

全国的に見ると、各都道府県予選の参加者数が横ばいか減っている状況がある。また、選手自体が高齢化していった、出場選手は固定化しているといった非常に大きな問題を障害者スポーツは抱えている。

若い層を増やして、障害者スポーツの底辺を広げるには支援学校が重要になってくる。県教委の方も支援学校にいろいろと働きかける状況を作っていただければ非常にありがたい。

(事務局)

盲学校や聾学校については、近畿盲学校体育連盟、近畿聾学校体育連盟の中で様々なスポーツの取り組みをしている。それ以外の特別支援学校については和歌山県内に支援体連という組織を作って大きな大会を実施している。各特別支援学校、特に知的障害、肢体不自由の生徒が通う支援学校では、支援体連の大会に向けた体育の授業を教育課程上に位置

付けている。

特別支援学校に通う子供たちのスポーツ大会の参加案内は 3 パターンあり、一つ目は学校からの案内でポスターチラシや学校によっては案内文を別に作って送っている。

二つ目は、特別支援学校に通う子供たちが行っているデイサービス等の福祉サービス施設でスポーツ大会の案内をしてもらっている。

三つ目は、市町村の役場で案内をもらっている。

この三つの案内の中で、スポーツ大会への参加の取りまとめをそれぞれ 3 ヶ所で各々やっており、少し統一感のないことがわかってきたので、特別支援学校の校長会等にも相談させていただき、統一感を持つような形で案内をできたらと思っている。その際、障害者スポーツ協会の事務局とも相談をさせていただいて、わかりやすい形での案内、取りまとめというふうに進めていくべきと考えている。

ただ、引率については、多くの先生方はボランティアで参加している状況があるため、特別支援学校内での取り組み、教育活動としての取り組み、この大会への参加の仕方について、事務局、特別支援学校校長会と協議を進めて参りたい。

(委員)

現在、国では障害者スポーツ大会はスポーツ庁が担当しているが、県では国体は教育委員会、体協が担当し、障害者スポーツは福祉が担当しているという現状があるように思う。競技団体の中に障害者スポーツ担当を配置する等して障害者スポーツを支援してあげて欲しい。

(事務局)

障害者スポーツは知事部局の障害福祉課と、スポーツは教育委員会のスポーツ課というところで実際分かれている現状がある。ただ、スポーツ課長も昨年度から障害者スポーツ協会の理事にもなり、障害者スポーツ大会にも出席している。また、スポーツ課の競技力向上推進班にも障害者スポーツの担当も置く等、常に情報共有するようにしている。

競技団体の中に障害者スポーツの担当部門を設置するというについては、少し研究をさせて欲しい。

(委員)

予算もいりますので、じっくりと研究してください。

(委員)

競技団体の中に障害者担当窓口をとということだが、各競技によってパターンが違うので、いろいろ見極めながら良いパターンを模索していくのがよいのではないかな。

5 意見交換

雑賀委員・田村委員・西脇委員 新任あいさつ

6 閉会